

2 麦 類

(1) 要 旨

ア 作付面積

令和元年産4麦（小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦）の子実用作付面積は27万3,000haで、前年産並みとなった。

このうち、北海道は12万3,300ha、都府県は14万9,800haで、それぞれ前年産並みとなった（表2-1、図2-1）。

イ 収穫量

令和元年産4麦の子実用収穫量は126万tで、前年産に比べ32万400t（34%）増加した。

これは、4麦全てにおいて10a当たり収量が前年産を上回ったためである（表2-1、図2-1）。

図2-1 4麦（子実用）の作付面積及び収穫量の推移（全国）

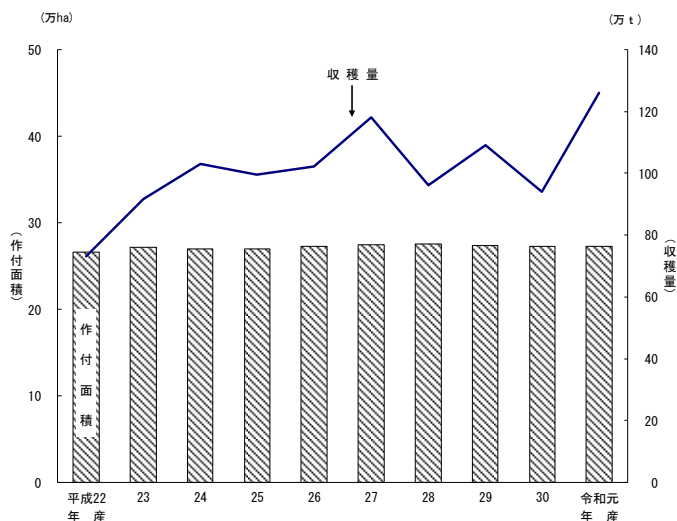


表2-1 令和元年産4麦（子実用）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較					(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収	収 穫 量		10a 当 たり 平均収量	10a 当 たり 平均収量
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比	対 比	対 比
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg
4 麦 計	273,000	...	1,260,000	100	100	nc	320,400	134	nc	...
小 麦	211,600	490	1,037,000	△ 300	100	136	272,100	136	123	399
二条大麦	38,000	386	146,600	△ 300	99	121	24,900	120	128	301
六条大麦	17,700	315	55,800	400	102	140	16,800	143	111	285
はだか麦	5,780	351	20,300	360	107	136	6,300	145	140	250
北 海 道										
4 麦 計	123,300	...	685,700	200	100	nc	208,900	144	nc	...
小 麦	121,400	558	677,700	0	100	144	206,600	144	121	460
二条大麦	1,700	448	7,620	40	102	134	2,080	138	128	349
六条大麦	17	441	75	x	x	x	x	x	nc	...
はだか麦	149	213	317	85	233	124	207	288	63	336
都 府 県										
4 麦 計	149,800	...	574,100	0	100	nc	111,300	124	nc	...
小 麦	90,200	398	359,400	△ 300	100	122	65,600	122	126	315
二条大麦	36,300	383	139,000	△ 300	99	121	22,900	120	128	299
六条大麦	17,700	315	55,700	400	102	140	16,700	143	111	285
はだか麦	5,630	355	20,000	280	105	137	6,100	144	141	251

注：1 「(参考) 10a 当たり平均収量対比」とは、10a 当たり平均収量（原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値をいう。ただし、直近7か年全ての10a 当たり収量が確保できない場合は、6か年又は5か年の最高及び最低を除いた平均とし、4か年又は3か年の場合は、単純平均である。）に対する当年産の10a 当たり収量の比率である。なお、直近7か年のうち、3か年分の10a 当たり収量のデータが確保できない場合は、10a 当たり平均収量を作成していない（以下各統計表において同じ。）。

2 全国農業地域別（都府県を除く。）の10a 当たり平均収量は、各都府県の10a 当たり平均収量に当年産の作付面積を乗じて求めた平均収穫量を全国農業地域別に積み上げ、当年産の全国農業地域別作付面積で除して算出している（以下各統計表において同じ。）。

表2-2 令和元年産4麦（子実用）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量（全国農業地域別）

全農地	国	4麦計		小麦				二条大麦				六条大麦				はだか麦			
		作付面積	収穫量	作付面積	10a当たり収量	収穫量	(参考)10a当たり均量比	作付面積	10a当たり収量	収穫量	(参考)10a当たり均量比	作付面積	10a当たり収量	収穫量	(参考)10a当たり均量比	作付面積	10a当たり収量	収穫量	(参考)10a当たり均量比
		ha	t	ha	kg	t	%	ha	kg	t	%	ha	kg	t	%	ha	kg	t	%
全	国	273,000	1,260,000	211,600	490	1,037,000	123	38,000	386	146,600	128	17,700	315	55,800	111	5,780	351	20,300	140
北	海	123,300	685,700	121,400	558	677,700	121	1,700	448	7,620	128	17	441	75	nc	149	213	317	63
都	府	149,800	574,100	90,200	398	359,400	126	36,300	383	139,000	128	17,700	315	55,700	111	5,630	355	20,000	141
東	北	7,690	22,900	6,370	290	18,500	133	14	307	43	119	1,300	335	4,360	nc	7	329	23	nc
北	陸	9,660	28,600	376	188	705	90	2	100	2	67	9,280	301	27,900	102	x	x	x	nc
関	東・東	38,100	140,800	20,800	389	81,000	106	12,200	357	43,600	102	4,730	319	15,100	109	x	319	x	nc
東	海	16,800	71,100	16,000	429	68,600	131	4	75	3	61	709	329	2,330	129	x	330	x	169
近	畿	10,300	32,800	8,430	310	26,100	123	x	306	x	125	1,520	378	5,750	nc	x	341	x	152
中	国	6,040	22,700	2,540	385	9,780	146	2,700	396	10,700	127	x	243	x	133	707	293	2,070	nc
四	国	4,920	20,400	2,270	438	9,940	139	x	500	x	174	x	x	x	nc	2,630	395	10,400	148
九	州	56,400	234,700	33,400	433	144,700	136	21,200	397	84,200	147	x	385	x	119	1,740	327	5,690	135
沖	縄	x	x	16	94	15	58	x	x	x	nc	-	-	-	nc	-	-	-	nc

(2) 解説

ア 小麦（子実用）

(イ) 作付面積

小麦の作付面積は21万1,600haで、前年産並みとなった。

このうち、北海道は12万1,400ha、都府県は9万200haで、それぞれ前年産並みとなった（表2-1、2-2、図2-2）。

(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は490kgで、前年産を36%上回った。

このうち、北海道は558kgで、前年産を44%上回った。

また、都府県は398kgで、前年産を22%上回った。

これは、天候に恵まれ、生育が順調で登熟も良好であったこと等によるためである（表2-1、2-2、図2-2、2-3、2-4）。

(イ) 収穫量

収穫量は103万7,000tで、前年産に比べ27万2,100t（36%）増加した。

このうち、北海道の収穫量は67万7,700tで、前年産に比べ20万6,600t（44%）増加した。

また、都府県の収穫量は35万9,400tで、前年産に比べ6万5,600t（22%）増加した（表2-1、2-2、図2-2）。

図2-2 小麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

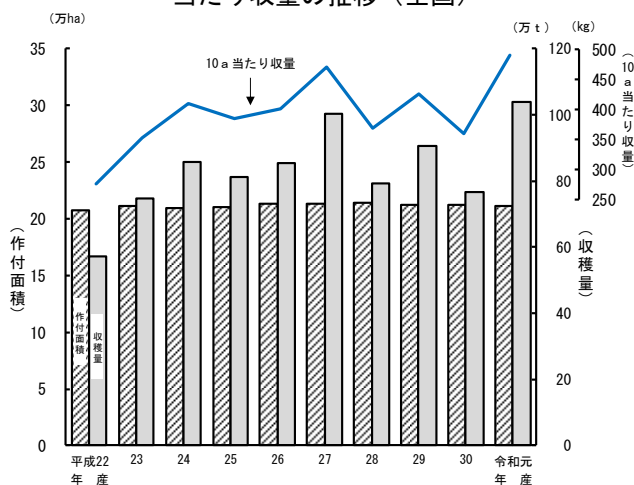


図 2-3 令和元年麦作期間の半旬別気象経過（帯広）

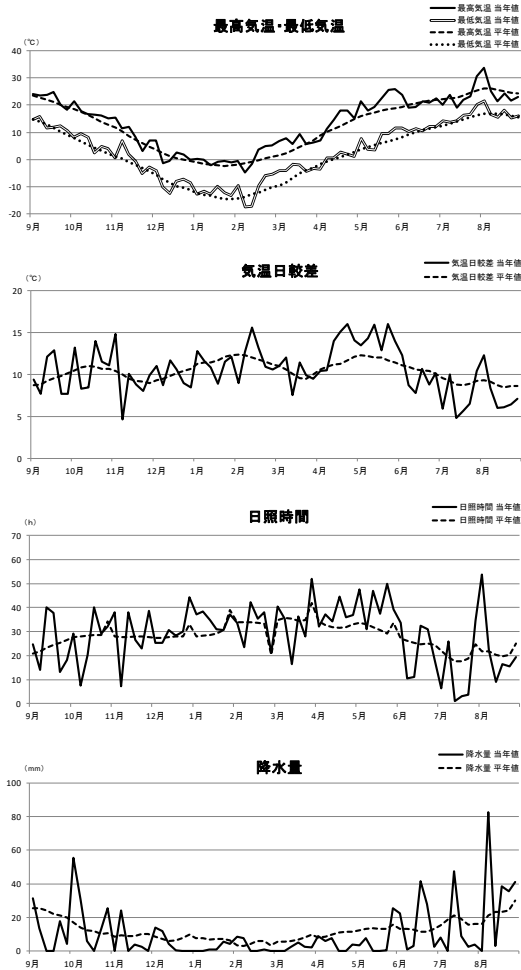
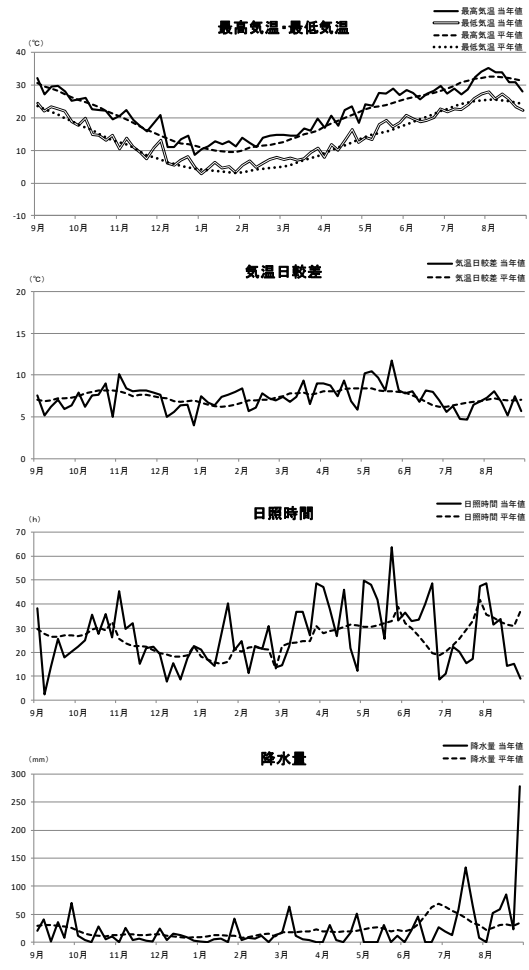


図 2-4 令和元年麦作期間の半旬別気象経過（福岡）



イ 二条大麦（子実用）

(ア) 作付面積

二条大麦の作付面積は3万8,000haで、前年産に比べ300ha（1%）減少した。

このうち、北海道は1,700haで、前年産に比べ40ha（2%）増加した。

一方、都府県は3万6,300haで、前年産に比べ300ha（1%）減少した（表2-1、2-2、図2-5）。

(イ) 10 a 当たり収量

10 a 当たり収量は386kgで、前年産を21%上回った。

これは、天候に恵まれ、生育が順調で登熟も良好であったこと等によるためである（表2-1、2-2、図2-5、2-6、2-7）。

(ロ) 収穫量

収穫量は14万6,600 t で、前年産に比べ2万4,900 t（20%）増加した（表2-1、2-2、図2-5）。

図2-5 二条大麦の作付面積、収穫量及び10 a 当たり収量の推移（全国）

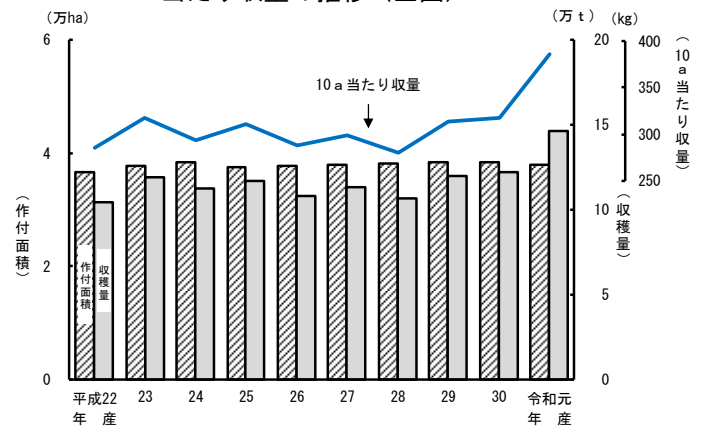


図2-6 令和元年麦作期間の半旬別気象経過（栃木）

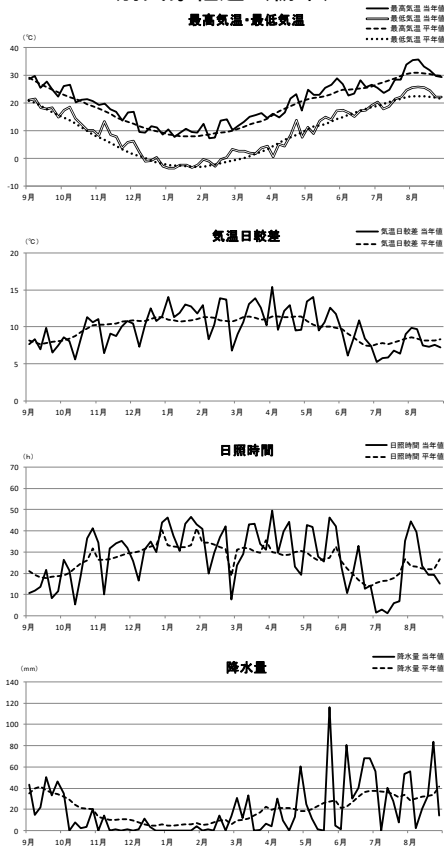
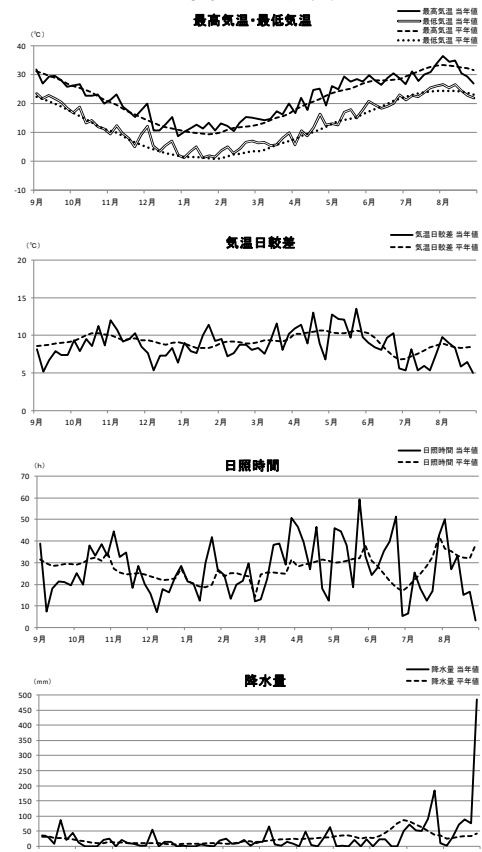


図2-7 令和元年麦作期間の半旬別気象経過（佐賀）



ウ 六条大麦（子実用）

(ア) 作付面積

六条大麦の作付面積は1万7,700haで、前年産に比べ400ha（2%）増加した（表2-1、2-2、図2-8）。

(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は315kgで、前年産を40%上回った。

これは、おおむね天候に恵まれ、生育が順調で登熟も良好であったこと等によるためである（表2-1、2-2、図2-8、2-9、2-10）。

(ウ) 収穫量

収穫量は5万5,800tで、前年産に比べ1万6,800t（43%）増加した（表2-1、2-2、図2-8）。

図2-8 六条大麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

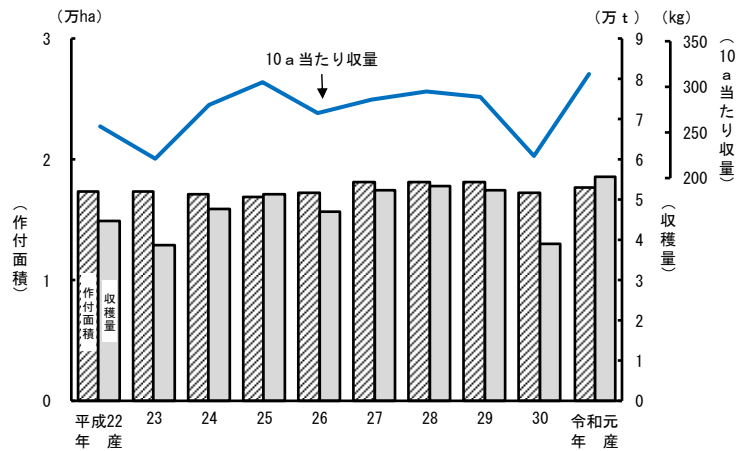


図2-9 令和元年麦作期間の半旬別気象経過（富山）

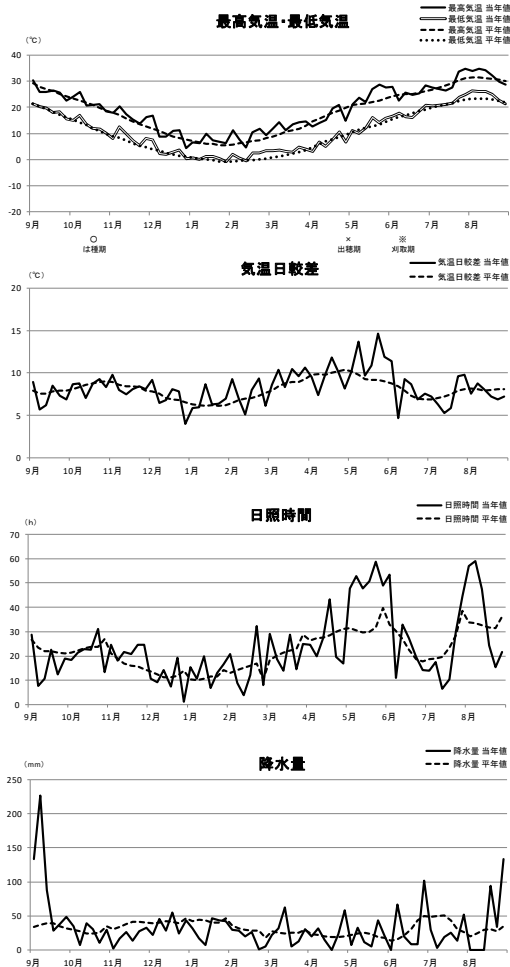
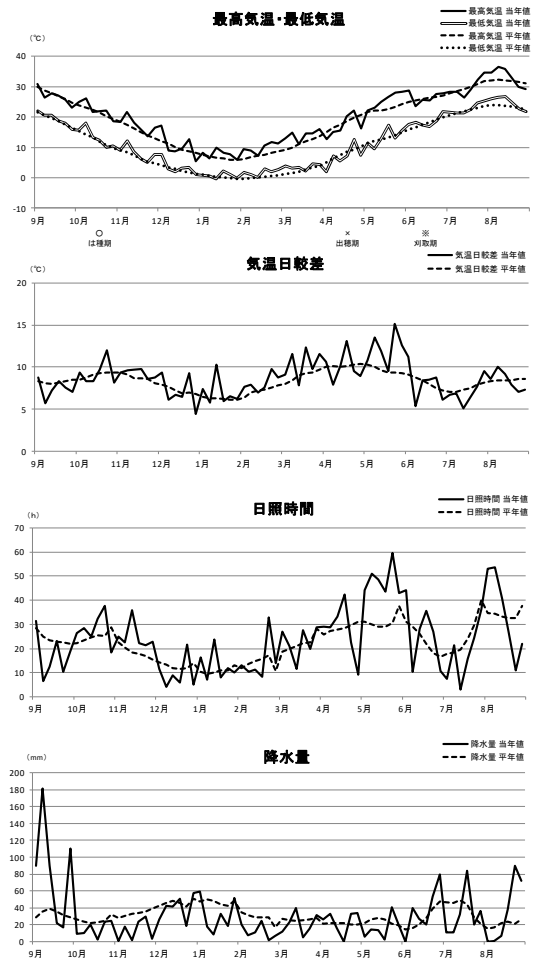


図2-10 令和元年麦作期間の半旬別気象経過（福井）



エ はだか麦（子実用）

(ア) 作付面積

はだか麦の作付面積は5,780haで、前年産に比べ360ha（7%）増加した（表2-1、2-2、図2-11）。

(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は351kgで、前年産を36%上回った。

これは、天候に恵まれ、生育が順調で登熟も良好であったこと等によるためである（表2-1、2-2、図2-11、2-12、2-13）。

(ウ) 収穫量

収穫量は2万300tで、前年産に比べ6,300t（45%）増加した（表2-1、2-2、図2-11）。

図2-11 はだか麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

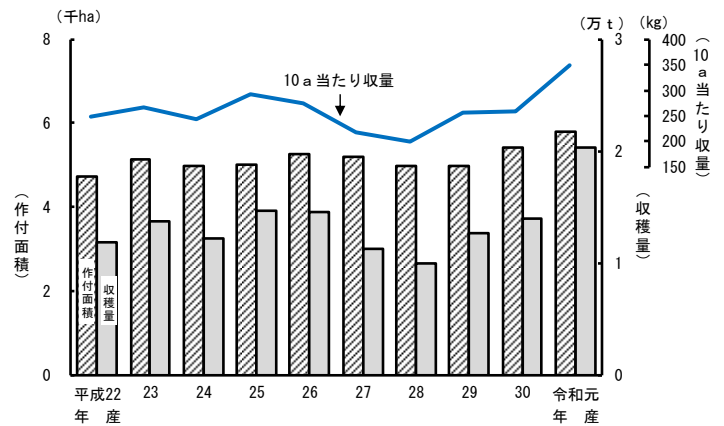


図2-12 令和元年麦作期間の半旬別気象経過（愛媛）

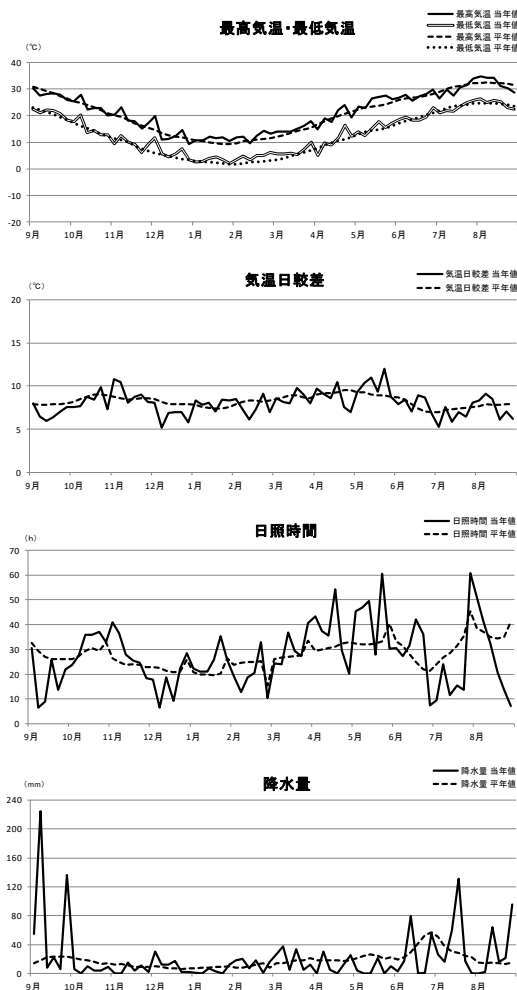
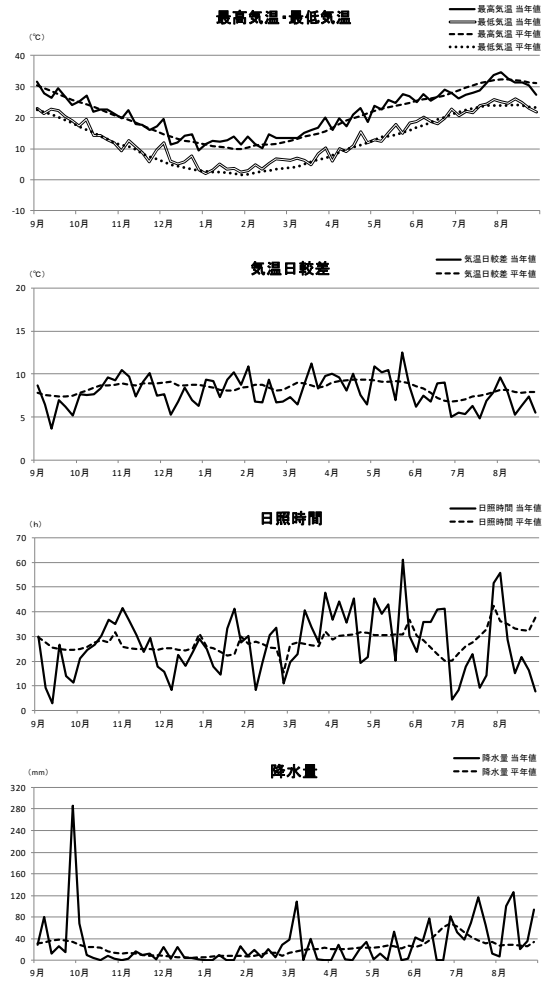


図2-13 令和元年麦作期間の半旬別気象経過（大分）



3 豆類・そば

(1) 要旨

令和元年産豆類（乾燥子実）の収穫量は、大豆が21万7,800 t、小豆が5万9,100 t、いんげんは1万3,400 tで、それぞれ前年産に比べ6,500 t（3%）、1万7,000 t（40%）、3,640 t（37%）増加した。一方、らっかせいは1万2,400 tで、前年産に比べ3,200 t（21%）減少した。

また、そば（乾燥子実）の収穫量は4万2,600 tで、前年産に比べ1万3,600 t（47%）増加した（表3）。

表3 令和元年産豆類（乾燥子実）及びそば（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10 a 当たり収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10 a 当たり収量	収穫量		10 a 当たり平均収量対	10 a 当たり平均収量	
				対差	対比	対比	対差	対比			
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
大豆	143,500	152	217,800	△ 3,100	98	106	6,500	103	92	166	
小豆	25,500	232	59,100	1,800	108	130	17,000	140	107	216	
うち北海道	20,900	265	55,400	1,800	109	129	16,200	141	106	250	
いんげん	6,860	195	13,400	△ 490	93	147	3,640	137	103	189	
うち北海道	6,340	200	12,700	△ 450	93	147	3,470	138	102	197	
らっかせい	6,330	196	12,400	△ 40	99	80	△ 3,200	79	83	237	
うち千葉	5,060	199	10,100	△ 20	100	78	△ 2,900	78	83	241	
そば	65,400	65	42,600	1,500	102	144	13,600	147	120	54	

注：小豆、いんげん及びらっかせいの作付面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、3年又は6年周期で全国調査を実施している。令和元年産については主産県を対象に調査を行った。なお、全国値は、主産県の調査結果から推計したものである。

(2) 解説

ア 大豆（乾燥子実）

(ア) 作付面積

大豆の作付面積は14万3,500haで、前年産に比べ3,100ha（2%）減少した（表3、図3-1）。

(イ) 10 a 当たり収量

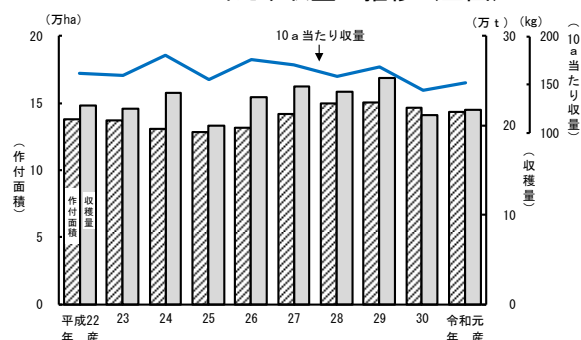
10 a 当たり収量は152kgで、前年産を6%上回った。

これは、東北、関東及び九州の一部の県において、日照不足、大雨、台風等の影響による被害があったものの、その他の地域において、作柄の悪かった前年産に比べて被害が少なかったためである（表3、図3-1）。

(ウ) 収穫量

収穫量は21万7,800 tで、前年産に比べ6,500 t（3%）増加した（表3、図3-1）。

図3-1 大豆の作付面積、収穫量及び10 a 当たり収量の推移（全国）



イ 小豆（乾燥子実）

(ア) 作付面積

小豆の作付面積は2万5,500haで、前年産に比べ1,800ha（8%）増加した。

このうち、主産地である北海道の作付面積は2万900haで、てんさい等からの転換により、前年産に比べ1,800ha（9%）増加した（表3、図3-2）。

(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は232kgで、前年産を30%上回った。

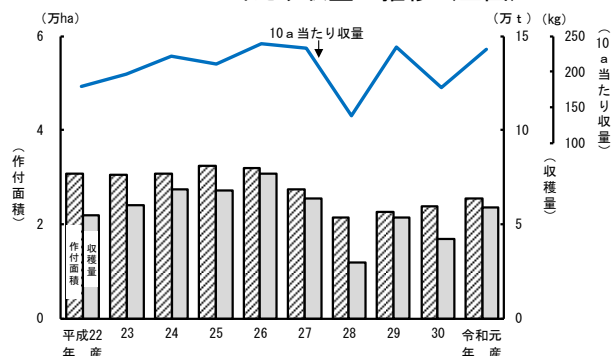
これは、主産地である北海道において、登熟期の天候に恵まれたことから、低温、日照不足及び多雨の影響で作柄が悪かった前年産に比べて登熟が良好であったためである（表3、図3-2）。

(ウ) 収穫量

収穫量は5万9,100tで、前年産に比べ1万7,000t（40%）増加した。

なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の94%を占めている（表3、図3-2）。

図3-2 小豆の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



ウ いんげん（乾燥子実）

(ア) 作付面積

いんげんの作付面積は6,860haで、前年産に比べ490ha（7%）減少した。

このうち、北海道の作付面積は6,340haで、他作物への転換により、前年産に比べ450ha（7%）減少した（表3、図3-3）。

(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は195kgで、前年産を47%上回った。

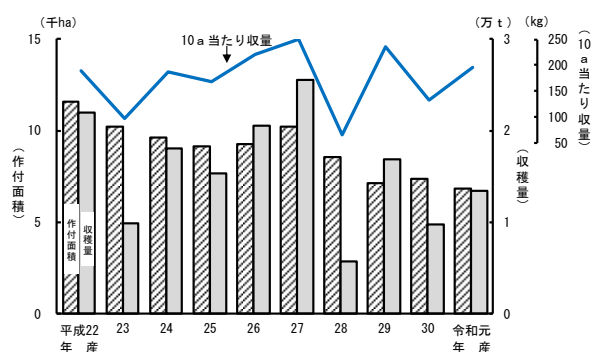
これは、主産地である北海道において、登熟期の天候に恵まれたことから、低温、日照不足及び多雨の影響で作柄が悪かった前年産に比べて登熟が良好であったためである（表3、図3-3）。

(ウ) 収穫量

収穫量は1万3,400tで、前年産に比べ3,640t（37%）増加した。

なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の95%を占めている（表3、図3-3）。

図3-3 いんげんの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



エ らっかせい（乾燥子実）

(ア) 作付面積

らっかせいの作付面積は6,330haで、前年産に比べ40ha（1%）減少した。

このうち、千葉県の前年産並みとなった（表3、図3-4）。

(イ) 10a当たり収量

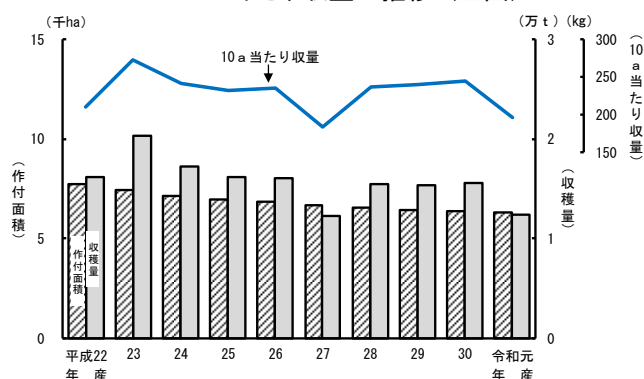
10a当たり収量は196kgで、前年産を20%下回った。

これは、主産地である千葉県において、低温、日照不足の影響により着さや数及び粒重が減少したことに加えて、台風の影響により倒伏被害等が発生したためである（表3、図3-4）。

(ウ) 収穫量

収穫量は1万2,400tで、前年産に比べ3,200t（21%）減少した。

図3-4 らっかせいの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



オ そば（乾燥子実）

(ア) 作付面積

そばの作付面積は6万5,400haで、前年産に比べ1,500ha（2%）増加した。

これは、他作物からの転換等があったためである（表3、図3-5）。

(イ) 10a当たり収量

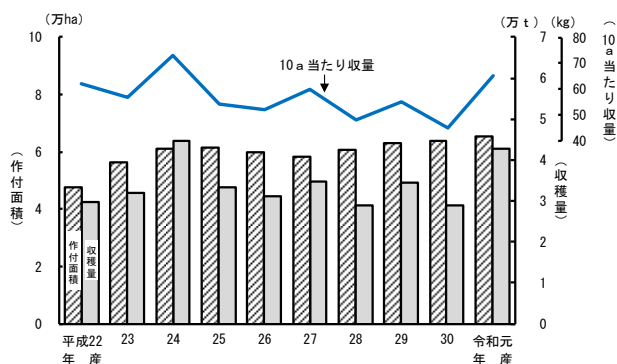
10a当たり収量は65kgで、前年産を44%上回った。

これは、生育期間の天候がおおむね良好に経過したためである（表3、図3-5）。

(ウ) 収穫量

収穫量は4万2,600tで、前年産に比べ1万3,600t（47%）増加した（表3、図3-5）。

図3-5 そばの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



4 かんしょ

(1) 作付面積

かんしょの作付面積は3万4,300haで、前年産に比べ1,400ha（4％）減少した。

これは、他作物への転換等があったためである（表4、図4）。

(2) 10a当たり収量

10a当たり収量は2,180kgで、前年産を2％下回った（表4、図4）。

(3) 収穫量

収穫量は74万8,700tで、前年産に比べ4万7,800t（6％）減少した（表4、図4）。

図4 かんしょの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

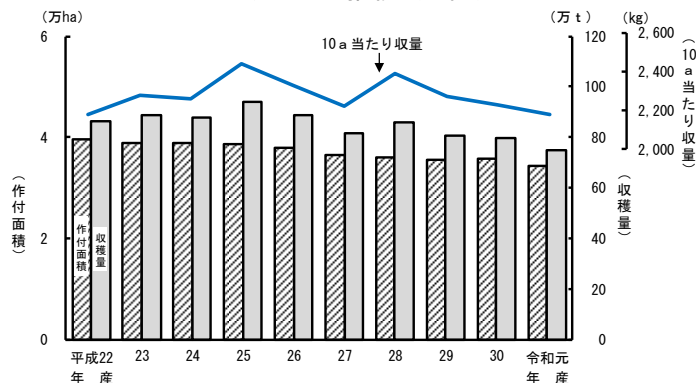


表4 令和元年産かんしょの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10a 当たり 収量	収穫量		10a 当たり 平均収量 対比	10a 当たり 平均収量	
				対差	対比	対比	対差	対比			
ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg		
全 国	34,300	2,180	748,700	△ 1,400	96	98	△ 47,800	94	95	2,300	
うち 茨城	6,860	2,450	168,100	80	101	96	△ 5,500	97	94	2,610	
千葉	4,040	2,320	93,700	△ 50	99	95	△ 6,100	94	94	2,480	
徳島	1,090	2,500	27,300	0	100	97	△ 700	98	101	2,470	
熊本	897	2,150	19,300	△ 74	92	95	△ 2,700	88	96	2,240	
宮崎	3,360	2,400	80,600	△ 250	93	96	△ 9,700	89	95	2,520	
鹿児島	11,200	2,330	261,000	△ 900	93	101	△ 17,300	94	95	2,450	

注：かんしょの作付面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、3年又は6年周期で全国調査を実施している。令和元年産については主産県を対象に調査を行った。なお、全国値は、主産県の調査結果から推計したものである。

5 飼料作物

(1) 牧草

ア 作付(栽培)面積

牧草の作付(栽培)面積は72万4,400haで、前年産並みとなった(表5-1、図5-1)。

イ 10a当たり収量

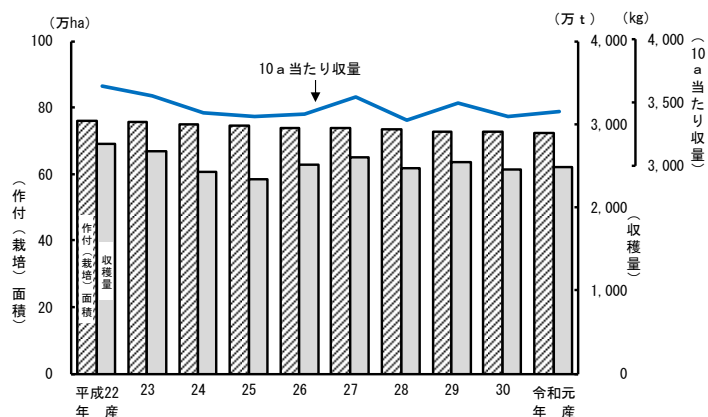
10a当たり収量は3,430kgで、前年産を1%上回った(表5-1、図5-1)。

ウ 収穫量

収穫量は2,485万tで、前年産に比べ22万9,000t(1%)増加した。

なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の70%を占めている(表5-1、図5-1)。

図5-1 牧草の作付(栽培)面積、収穫量及び10a当たり収量の推移(全国)



注：平成24年産及び平成25年産の10a当たり収量及び収穫量については、全国値の推計を行っていないため、主産県計の数値である。

表5-1 令和元年産牧草の作付(栽培)面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付(栽培)面積	10a当たり収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付(栽培)面積		10a当たり収量	収穫量		10a当たり平均収量対	10a当たり平均収量	
				対差	対比	対比	対差	対比	%	kg	
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
	724,400	3,430	24,850,000	△ 1,600	100	101	229,000	101	100	3,430	
うち北海道	532,800	3,270	17,423,000	△ 800	100	101	134,000	101	101	3,250	

注：飼料作物の作付面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、3年又は6年周期で全国調査を実施している。令和元年産調査については主産県を対象に調査を行った。なお、全国値は、主産県の調査結果から推計したものである。

(2) 青刈りとうもろこし

ア 作付面積

青刈りとうもろこしの作付面積は9万4,700haで、前年産並みとなった（表5-2、図5-2）。

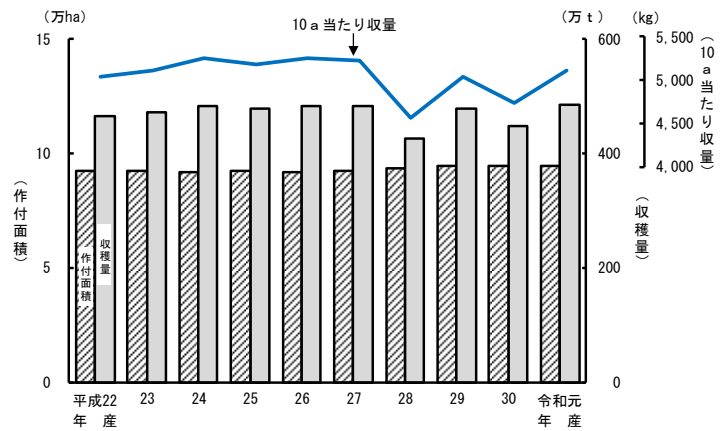
イ 10 a 当たり収量

10 a 当たり収量は5,110kgで、前年産を8%上回った。

これは、主産地である北海道において、は種期以降の天候が良好に推移したことにより初期生育が順調に経過し、台風による倒伏被害も少なかった

ことで、低温、日照不足及び多雨の影響があった前年産に比べ、被害の発生が少なかったためである（表5-2、図5-2）。

図5-2 青刈りとうもろこしの作付面積、収量及び10 a 当たり収量の推移（全国）



ウ 収穫量

収穫量は484万1,000 tで、前年産に比べ35万3,000 t（8%）増加した。

なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の64%を占めている（表5-2、図5-2）。

表5-2 令和元年産青刈りとうもろこしの作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10 a 当たり収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10 a 当たり収量		収穫量		10 a 当たり平均収量対比	10 a 当たり平均収量
				対差	対比	対比	対差	対比	対差		
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
	94,700	5,110	4,841,000	100	100	108	353,000	108	100	5,090	
うち北海道	56,300	5,530	3,113,000	800	101	114	416,000	115	103	5,390	

注： 飼料作物の作付面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、3年又は6年周期で全国調査を実施している。令和元年産調査については主産県を対象に調査を行った。なお、全国値は、主産県の調査結果から推計したものである。

(3) ソルゴー

ア 作付面積

ソルゴーの作付面積は1万3,300haで、前年産に比べ700ha（5%）減少した。

これは、他作物への転換等があったためである（表5-3、図5-3）。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は4,350kgで、前年産を1%下回った（表5-3、図5-3）。

ウ 収穫量

収穫量は57万8,100tで、前年産に比べ3万9,900t（6%）減少した（表5-3、図5-3）。

図5-3 ソルゴーの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

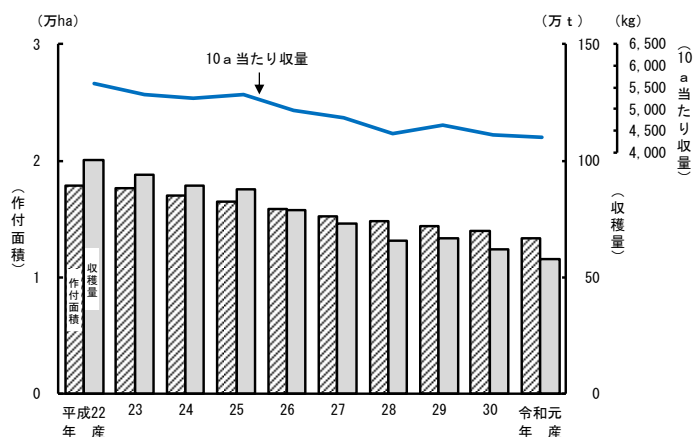


表5-3 令和元年産ソルゴーの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量		収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平 均 収 量
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
全 国	ha 13,300	kg 4,350	t 578,100	ha △ 700	% 95	% 99	t △ 39,900	% 94	% 90	kg 4,810	

注： 飼料作物の作付面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、3年又は6年周期で全国調査を実施している。令和元年産調査については主産県を対象に調査を行った。なお、全国値は、主産県の調査結果から推計したものである。

6 工芸農作物

(1) 茶

ア 栽培面積

全国の茶の栽培面積は4万600haで、前年に比べ900ha（2％）減少した（表6－1）。

イ 摘採実面積

主産県の摘採実面積は3万2,400haで、前年産に比べ900ha（3％）減少した（表6－2）。

ウ 生葉収穫量

主産県の生葉収穫量は35万7,400tで、前年産に比べ2万6,200t（7％）減少した。

これは、摘採実面積の減少に加えて、主産地である静岡県において生育期間の天候不順等により、生育が抑制されたこと等によるためである（表6－2）。

エ 荒茶生産量

主産県の荒茶生産量は7万6,500tで、前年産に比べ5,000t（6％）減少した。

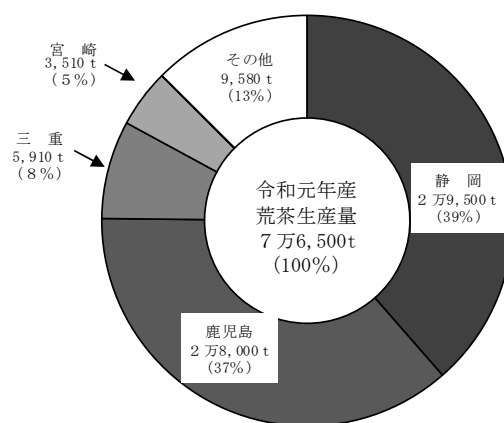
都府県別にみると、静岡県が2万9,500t（主産県計に占める割合は39％）、次いで鹿児島県が2万8,000t（同37％）、三重県が5,910t（同8％）、宮崎県が3,510t（同5％）となっている（表6－2、図6－1）。

表6－1 茶の栽培面積（全国）

単位：ha	
区 分	栽 培 面 積
平成30年	41,500
令和元	40,600
対前年産比（％）	98

注：平成30年及び令和元年の茶の栽培面積は、主産県調査であり、全国値は主産県の調査結果から推計したものである。

図6－1 荒茶生産量割合（主産県）



注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない。

表6－2 令和元年産茶の摘採面積、10a当たり生葉収量、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）

区 分	摘 採 面 積		10 a 当 たり 生 葉 収 量		生 葉 収 穫 量		荒 茶 生 産 量	
	実 面 積	延 べ 面 積	一 番 茶	一 番 茶	一 番 茶	一 番 茶	一 番 茶	一 番 茶
	ha	ha	kg	kg	t	t	t	t
平成30年産	33,300	81,700	1,150	461	383,600	153,100	81,500	30,500
令和元	32,400	79,100	1,100	428	357,400	138,700	76,500	27,800
対前年産比（％）	97	97	96	93	93	91	94	91

注：茶の収穫量調査は主産県調査であり、6年周期で全国調査を実施している。平成30年産及び令和元年産については主産県を対象に調査を行った。

(2) なたね（子実用）

ア 作付面積

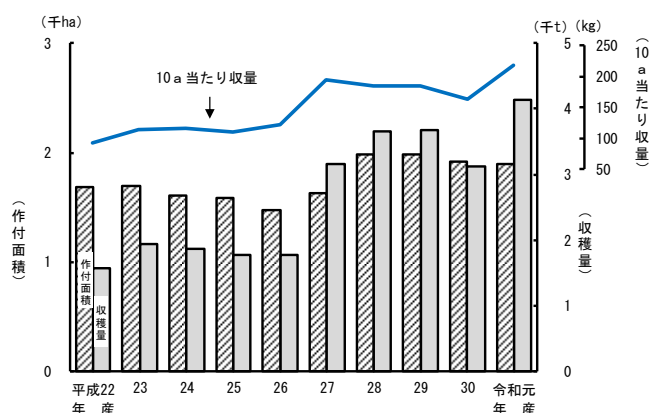
なたねの作付面積は1,900haで、前年産に比べ20ha（1%）減少した（表6-3、図6-2）。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は217kgで、前年産を33%上回った。

これは、全般的に生育期間を通じて天候に恵まれたことから、作柄が良好であったためである（表6-3、図6-2）。

図6-2 なたねの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



ウ 収穫量

収穫量は4,130 tで、前年産に比べ1,010 t（32%）増加した（表6-3、図6-2）。

表6-3 令和元年産なたねの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10a 当 たり 収	収 穫 量		10a 当 たり 平 均 収 量 対	10a 当 たり 平 均 収 量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比	%	kg	
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
	1,900	217	4,130	△ 20	99	133	1,010	132	141	154	

(3) てんさい（北海道）

ア 作付面積

北海道のてんさいの作付面積は5万6,700haで、前年産に比べ600ha（1%）減少した（表6-4、図6-3）。

イ 10a当たり収量

北海道の10a当たり収量は7,030kgで、前年産を12%上回った。

これは、6月以降、おおむね天候に恵まれたことで作柄が良好となったためである（表6-4、図6-3）。

ウ 収穫量

北海道の収穫量は398万6,000tで、前年産に比べ37万5,000t（10%）増加した（表6-4、図6-3）。

図6-3 てんさいの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（北海道）

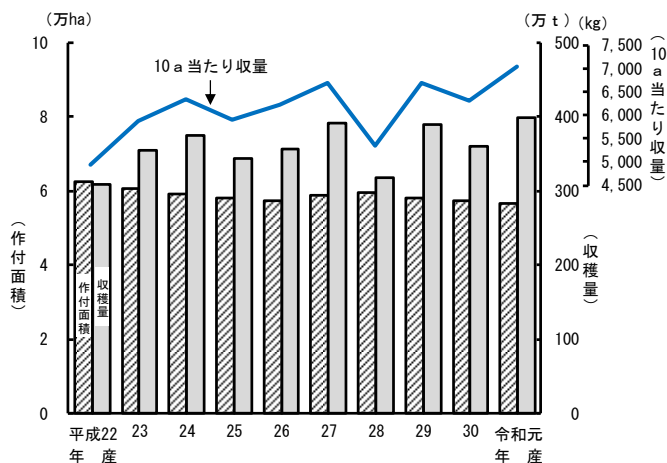


表6-4 令和元年産てんさいの作付面積、10a当たり収量及び収穫量（北海道）

都道府県	作付面積	10a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収	収 穫 量		10 a 当 たり 平均収量 対	10 a 当 たり 平均収量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
北 海 道	56,700	7,030	3,986,000	△ 600	99	112	375,000	110	112	6,290	

注：てんさいの調査は、北海道を対象に行っている。

(4) さとうきび

ア 収穫面積

さとうきびの収穫面積は2万2,100haで、前年産に比べ500ha（2%）減少した。

これは、他作物への転換や栽培農家の高齢化による栽培中止があったためである（表6-5、図6-4）。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は5,310kgで、前年産並みとなった（表6-5、図6-4）。

ウ 収穫量

収穫量は117万4,000tで、前年産に比べ2万2,000t（2%）減少した（表6-5、図6-4）。

図6-4 さとうきびの収穫面積、収穫量及び10a当たり収量の推移

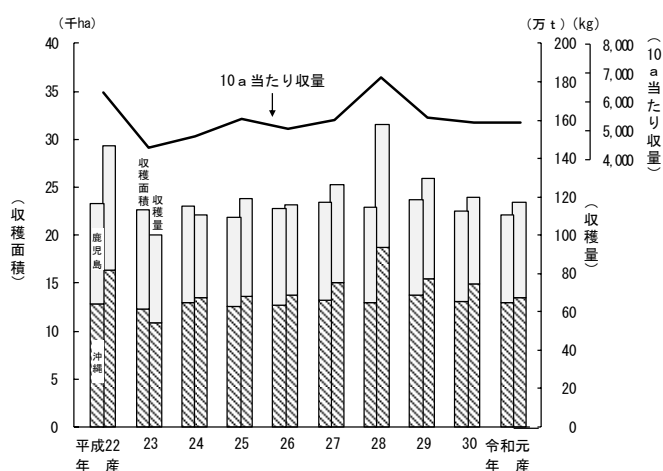


表6-5 令和元年産さとうきびの作型別栽培・収穫面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	栽培面積 ha	収穫面積				10a当たり収量				
		計	夏植え	春植え	株出し	計	夏植え	春植え	株出し	
全国	平成30年産 令和元	27,700 27,200	22,600 22,100	4,040 4,680	3,260 2,940	15,300 14,500	5,290 5,310	7,050 6,660	4,880 5,110	4,910 4,910
対前年産比(%)		98	98	116	90	95	100	94	105	100
鹿児島		10,600	9,170	1,180	1,740	6,250	5,430	7,130	5,310	5,140
対前年産比(%)		97	97	129	101	92	113	113	109	112
沖縄		16,600	12,900	3,500	1,200	8,210	5,240	6,500	4,810	4,760
対前年産比(%)		99	98	112	78	97	92	89	98	92

区分	収穫量				
	計	夏植え	春植え	株出し	
全国	平成30年産 令和元	1,196,000 1,174,000	284,700 311,600	159,100 150,100	751,900 712,100
対前年産比(%)		98	109	94	95
鹿児島		497,800	84,100	92,400	321,300
対前年産比(%)		110	146	110	103
沖縄		676,000	227,500	57,700	390,800
対前年産比(%)		91	100	77	89

注：さとうきびの調査は、鹿児島県及び沖縄県を対象に行っている。

(5) こんにゃくいも

ア 栽培面積・収穫面積

全国のこんにゃくいもの栽培面積は3,660haで前年産に比べ40ha（1%）減少した。

また、全国の収穫面積は2,150haで、前年産並みとなった（表6-6、図6-5）。

イ 10a当たり収量

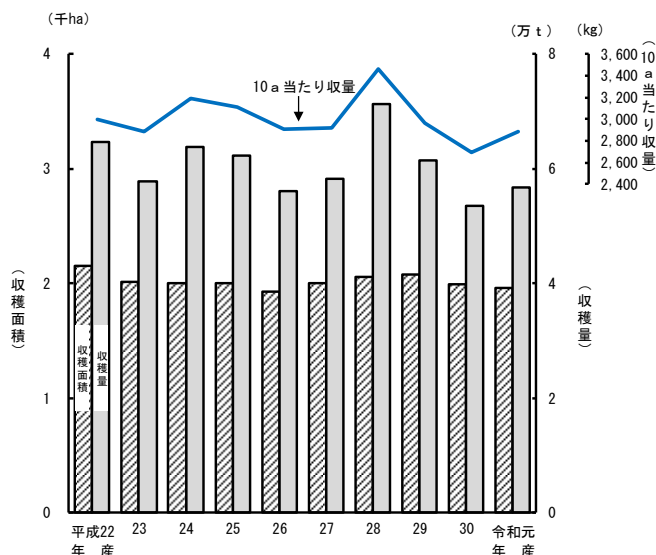
全国の10a当たり収量は2,750kgで、前年産を6%上回った。

これは、7月の日照不足の影響等により生育が抑制されたものの、作柄が特に悪かった前年産に比べて被害が少なかったためである（表6-6、図6-5）。

ウ 収穫量

全国の収穫量は5万9,100tで、前年産に比べ3,200t（6%）増加した（表6-6、図6-5）。

図6-5 こんにゃくいもの収穫面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（主産県）



注：こんにゃくいもの全国値が全て揃わないため、主産県計で作成している。

表6-6 令和元年産こんにゃくいもの栽培・収穫面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	栽培面積 ha	収穫面積 ha	10a 当たり 収量 kg	収穫量 t	前年産との比較								(参考)	
					栽培面積		収穫面積		10a当たり収量		収穫量		10a当たり 平均収量 対比	10a当たり 平均収量
					対差	対比	対差	対比	対差	対比	対差	対比		
	ha	%	ha	%	%	t	%	%	kg					
全国	3,660	2,150	2,750	59,100	△40	99	△10	100	106	3,200	106	99	2,780	
うち栃木	84	57	2,380	1,360	△5	94	△5	92	99	△130	91	92	2,580	
群馬	3,250	1,900	2,910	55,300	△30	99	△30	98	108	3,200	106	96	3,040	

注：こんにゃくいもの作付面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、3年又は6年周期で全国調査を実施している。令和元年産調査については、主産県を対象に調査を行った。なお、全国値は、主産県の調査結果から推計したものである。

(6) い (主産県)

ア 作付面積

主産県（福岡県及び熊本県。以下同じ。）における「い」の作付面積は476haで、前年産に比べ65ha（12%）減少した。

これは、他作物への転換等があったためである（表6-7、図6-6）。

イ 10a当たり収量

主産県の10a当たり収量は1,500kgで、前年産を8%上回った。

これは、生育期間の天候がおおむね順調に経過したためである（表6-7、図6-6）。

ウ 収穫量

主産県の収穫量は7,130tで、前年産に比べ370t（5%）減少した。

これは、10a当たり収量が前年産を上回ったものの、作付面積が減少したためである（表6-7、図6-6）。

エ 畳表生産農家数及び畳表生産量

主産県の「い」の生産農家数は406戸で、前年産に比べ44戸（10%）減少した。

このうち、畳表の生産まで一貫して行っている畳表生産農家数は402戸で、前年に比べ47戸（10%）減少した。

なお、平成30年7月から令和元年6月までの畳表生産量は2,500千枚で、前年に比べ110千枚（4%）減少した（表6-7）。

図6-6 「い」の収穫面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（主産県）

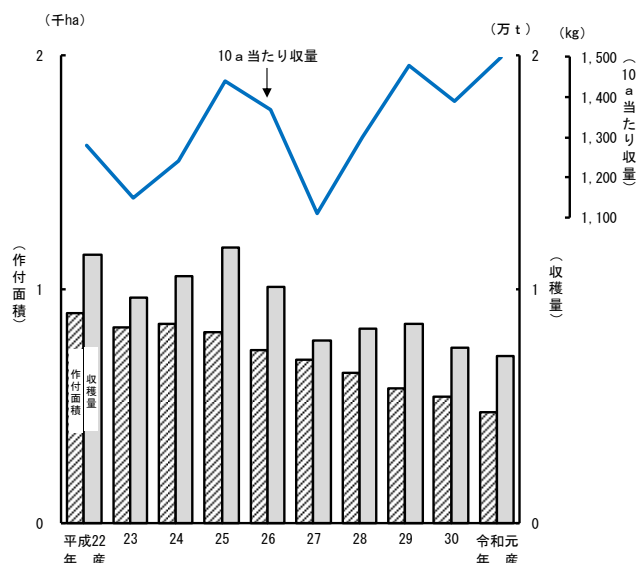


表6-7 令和元年産「い」の作付面積、10a当たり収量、収穫量等（主産県）

区分	「い」 生産 農家数	作付 面積 ha	10 a 当たり 収量 kg	収穫量 t	前年産との比較					(参考)		畳表生産 農家数 戸	畳表 生産量 千枚
					作付面積		10 a 当たり 収量	収穫量		10 a 当たり 平均収量 対比	10 a 当たり 平均収量		
					対差	対比	対比	対差	対比	%	kg		
主産県計	406	476	1,500	7,130	△ 65	88	108	△ 370	95	111	1,350	402	2,500
福岡	7	5	1,230	62	△ 2	71	103	△ 21	75	100	1,230	8	25
熊本	399	471	1,500	7,070	△ 63	88	108	△ 350	95	111	1,350	394	2,470

注：1 「い」の調査は、福岡県及び熊本県を対象に行っている。

2 「い」生産農家数は、令和元年産の「い」の生産を行った農家の数である。

3 畳表生産農家数は、「い」の生産から畳表の生産まで一貫して行っている農家で、平成30年7月から令和元年6月までに畳表の生産を行った農家の数である。

4 畳表生産量は、畳表生産農家によって平成30年7月から令和元年6月までに生産されたものである。

5 主産県計の10a当たり平均収量は、各県の10a当たり平均収量に当年産の作付面積を乗じて求めた平均収穫量を積み上げ、当年産の主産県計作付面積で除して算出している。